

米・サマーリーグのチーム、『オークレア・キャバリアーズ』で今シーズンプレーしていた中島選手からのメッセージです！

### 中島選手のコメント

『今シーズン、アメリカのウィスコンシン州のオークレア・キャバリアーズという球団でプレーさせて頂いた中島祐次と申します。(株)BMI の代表である三好さんを始め、スタッフの皆さんのサポートもあり、アメリカでプレーする事が出来て心から感謝しています。

僕は、産後数年後に親の遺伝で聴力が少しずつ低下してしまい、今は音が全く聞こえない状態です。 聞こえない代わりに、何もかも目で情報を集めながら生きています。僕の家族は全員聾者(耳が聞こえない人のこと)であり、デフファミリー(家族全員の耳が聞こないこと)です。 聾者として生きて行く術は、全て親から教えて貰いました。 そういう環境で過ごしてきたので、自分が聾者である事を気が付かせてもらったのが野球でした。

それまで自分は聾者なのか健常者なのか全く分からなかったです。 聾者は、普通に言葉が聞き取れる人もいれば、少ししか聞き取れないとか、全く分からないとか、それぞれ居ます。十人十色だと思ってください。 僕の場合は、全然聞こえません。補聴器を付ければ音の高低は聞き取れますぐ、言葉は聞き取れないです。また、補聴器を使うとすれば免許更新の時くらいです。

普段の会話は手話がメインであり、健常者相手だと相手の口を読み取ながらジェスチャーや筆談を中心に会話を取っています。 相手の口を読み取る際も、十分読み取れるとは限りません。途中まで理解できて、途中から分からぬ時もあります。特にミーティングは皆の話が分からなくてミーティングが終わつたあと、必ずノートまたはホワイトボードを持って監督とコーチ、そしてチームメイトのとこに行つて「何を言つてゐるのか分からなかつたので教えてください」と確認しに行きます。分からぬままだと自分の為にならないし、それだけじゃなく周りも誤解されたらチームにとってはマイナスになるだけです。 本当に分からぬ時は分からぬとハッキリ伝える事が大事です。 そういう小さなコミュニケーションを繰り返すことでお互いの信頼関係が築いていけるし、周りが少しずつ理解してくれると僕は思います。

日本の硬式野球は世界から見ればスピード感溢れたスマートベースボールが武器であり、投手王国だという印象を僕は持つており、WBC、W杯、オリンピック、世界大会で頂点に立つたりしたこともある実績が残つており、間違ひなく世界屈指の強豪国だと信じています。

しかし、残念ながら聾者に対してまだ理解が少ないような声を聞いた事があります。代表的な例を挙げるとしたら、

- ①聞こえないからの理由で硬式は危険。
- ②怪我したら責任が持てない。
- ③どうやってコミュニケーション取るの？

などがあります。

個人的に、チームによってそれぞれの考え方や方針があって否定するつもりはありません。

だけど、実際にプレーを見てそこから判断をしてもらえたと思う時もあります。実際に見て貰い、力が足りないからとの理由で厳しいと判断された場合、納得できます。 例えはの話ですが、単純に健常者より聾者の方が上手いのに聞こえないからの理由で入団拒否されるという話を聞くと少し悲しいですね。硬式をやりたくても やれない聾者がどこかにいるかもしれないという事も知つてもらえたならそれで嬉しいです。

僕の父も僕同様に聾者であり、元野球選手でした。時代が違つて、昔は今よりもう少し周りの視線が厳しかったと話しており、それで続ける事を断念したと父から聞いた事があります。

他に、今から 15~20 年前になりますが、NPB（日本プロ野球 以下 NPB）のプロテストを受けて合格通知を頂いた聾者が数名いたそうです。しかし、プロのスカウトや指導者は耳が聞こえない事を知り、それだけの理由で合格を取り消されたという

悲しい出来事がありました。

これもたとえばの話ですが、もしも NPB 球団でプレーをして、活躍をしていたとしたらもう少し今の現実は違った世界になっていたのかなと考えると・・・。 とはいえ、昔と比べると差別や偏見が少しずつ減ってきてているように自分は感じています。 NPB は石井裕也投手だけですが、韓国プロ野球は数人、MLB は数十人いました。 その事を少しでも知ってもらえると嬉しいです。

今の時代でも、硬式野球をやりたくても環境や指導者に恵まれてない為に断念した聾者が居れば、環境に恵まれて普通に硬式野球をプレーしている聾者、僕の周りにはそれぞれ居ます。健常者でも聾者でも関係なく、明るい未来が待っている子供達が沢山居ます。 まだ子供なのに聾者だからという理由で硬式野球をやれなかつた子供達が居ます。 僕は、環境や指導者に恵まれていたかも知れませんが、普通にみんなと競いながらメンバー入りを目指して頑張っていました。

不自由がなく無我夢中に野球をやってきたのです。硬式野球をやりたくてもやれない聾者達が居ると耳に入り、少しずつ考えるようになり、気持ちも変化が起り始めました。 ある友人が、前例がないならお前が成し遂げて前例を作つていけばいいという言葉を頂きましたが、世の中は決して甘くないです。それは簡単な事ではないと。

しかし、それがきっかけで少しずつ考えるようになり、今はプロ野球を目指しながら聾者の子供達の為に頑張ろうと決意しました。僕が少しでも結果を出して野球界で認めてもらえば、聾者の子供達にとっても更にチャンスが広がるはずだと信じています。チャンスが広がってきたら、聾者の子供達にとって不自由がなく健常者と競いながら楽しく硬式野球をやれる場所が増えるはずです。

最後になりますが、小さい時から野球漬けで毎日青い空の下で白球を追いかけていました。気が付いたら大学野球、社会人野球、専門学校、関西独立リーグ、そして今年はアメリカのサマーリーグでプレーしました。色々なところでプレーしてきましたが、それは周りの出会いや周りが僕の背中を押してくれたからこそ今も野球を続けることができたと思っています。最終目標は勿論プロ野球選手です。今はまだ未熟であり学ぶ事が沢山ありますが、自分が納得できるまで挑戦し続けるつもりでいるので、これからも応援を宜しくお願い致します。』

昨年の冬に彼からの相談を受けて、筆談によって弊社（以下 BMI）代表の三好と長時間の意見交換をしました。ノートのページが無くなってしまうほど多くの筆談の中で、彼が出した答えはアメリカ Baseballへの挑戦でした。彼は全力で自分の思いを伝えてくれて、彼の強い熱意を感じ取る事ができたので、弊社としては全力でサポートしていく事を決めました。

“野球界における新たな価値創造”を理念にしている弊社と、自らが結果を出し続

けることで前例となり、聾者の選手たちが当たり前にプレーできる環境作りに貢献をしたいという彼の思いが重なり、サマーリーグでのプレーへと繋がりました。

聾者の選手を受け入れる環境も、チャンスもまだ日本では制約があります。小さなことかもしれません、彼とともにきっかけ作りをしようと BMI も挑戦を決めました。

我々には経歴や過去は関係ありません。野球をしたいと本気で思っている選手には全力でサポートしていく事を信条としています。そして、サポートするからには選手としての今後のキャリアはもちろんですが人間として、社会で生きていく社会人としてのマナーの習得にも力を入れて取り組んでいます。野球を通じて人間として選手が成長していく事が私たちの願いでもあります。今後とも中島選手の応援を宜しくお願い致します！！

